

はじめに

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、その大きな被害はもちろんのこと、震災からの復旧の遅れが取りざたされています。人口減少、少子高齢化、社会基盤整備の遅れ等半島地域が抱える課題が顕著になり、同じ半島地域として今回の地震を深刻に受け止めて、地震への備えを行う必要性を再認識したところです。

一方、今回の能登半島地震では、大きな被害と苦難の中で、改めて地域コミュニティの重要性も明らかになりました。災害に対する日頃からの備え、発災時の避難、避難生活の中で高齢者を含む幅広い世代と一緒に困難に立ち向かう姿は、私たちに大きな希望を示してくれています。



情報化やDX化など様々な社会環境の変化が続く現代社会においても、高齢者を含む多世代が地域で安心して暮らし続けることができる地域環境づくり、顔の見える関係、手の届く距離感でつながる地域づくりは、いつまでもまちの基盤であると言えるのではないのでしょうか。

こうした思いを胸に、今期の下田市第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定にあたっては、「支え合う地域の絆、地域の輪～地域共生社会の実現に向けて～」を基本理念に掲げました。

誰もが社会的に孤立せず、互いに思いやり、支え合う地域づくりを市民の皆様と協働して進めていくことが、安心して暮らし続けられるまちづくりであると再認識し、「地域包括ケアシステムの深化と推進」「社会参加と生きがいつくり」「介護保険サービスの充実と円滑な運営」を重点目標として、それぞれ目標を達成していくための事業を体系的にとりまとめました。

今後、この計画に基づき、目標に掲げた地域づくりを目指して各種事業を着実に展開していきたいと考えております。

しかし、この計画の推進は、行政のみで進められるものではありません。市民の皆様のお声とともに積極的な参画をいただき、市民一丸となった取組みとしていくことで本当の地域づくりにつながっていくものと認識しています。今後も地域の皆様との協働により、地域づくりを進めてまいります。

結びに、本計画の策定に当たり、熱心な御審議を賜りました下田市高齢者保健福祉計画策定推進協議会の皆様をはじめ、貴重な御意見御提言をいただきました市民、事業者並びに各団体の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

下田市長 **松本正一郎**